

contents

P.1 ▶BAURAミーティングで地域の方と交流

P.2 ▶答志島実習で環境問題について考える

P.3 ▶合同ゼミ合宿ジョイントセミナー2024に参加
▶第9回なごや生物多様性センターまつりに出展

▶経営学ゼミ・経済学ゼミの学生たちが考えるスイーツ商品開発

P.4 ▶サンタ電車でつながる地域の輪

▶student's Interview

Topic 01 BAURAミーティングで地域の方と交流

10月20日(日)、四日市のみなとまちづくりプランを進めるため、様々なアクティビティやイベントを楽しみながら四日市「BAURA」について考えることを目的とした「BAURAミーティング」に総合政策学部の鶴田ゼミ、浅井ゼミの学生が参加しました。

学生たちが参加したのは、『学生企画 BAURAスタンプラリー』で、散策コースの途中にある3つのクイズに答えてスタンプを集め、集めた方に景品をプレゼントするという内容です。ゼミの学生たちが実際に四日市港を歩いて調査をし、スタンプラリーのコースやクイズなどを考えました。さらに、くじ引きやシール、スタンプラリーのマップなど、同企画スタンプラリーに関する備品は全て学生の手作り。入念に準備を整えてイベント当日を迎えました。

ミニ解説

～“BAURA”ってどんな意味？～

よっかいち庭浦 (ばうら)

…1473年(文明5年)の外宮庁宣案に記載された港名。当時、既に「四」のつく日に定期市(四日市場)が開設されており、その外港として、物流・人流の要衝として活況を呈していた。



イベント当日は天気にも恵まれ、多くの方々にスタンプラリーに参加してもらいました。スタンプラリーをしながらゆっくり散策してもらうことで、四日市港の魅力を改めて感じてもらえる機会になったのではないかと思います。

学生たちも実際に港を散策したり、四日市商工会議所の方から港とまちづくりについてお話を伺ったり、イベントで地域の方との交流を通して、どんな企画を立案したらまちに賑わいがでるのかなどを考える貴重な体験になりました。

Interview



阪口 結加さん

総合政策学部4年(経営戦略専攻)
愛知県立南陽高校出身

Q. 今回のBAURAミーティングで、工夫したことを教えてください

BAURAミーティングの参加は今年で3回目。前回、前々回は謎解きツアーをやりましたが、港の歴史を学ぶことがメインで、小さい子には少し難しいかなと思っていました。なので、今回は小さい子や家族連れをメインに、「楽しみながら、堅苦しくなく港のことを親しみやすく感じてもらう」をモットーに企画を考えました。くじ引きやスタンプ、スタンプラリーのマップなどの備品は、柔らかない色味で作って、誰が読んでも理解できるように易しい日本語を意識しながら作りました。実際に、小さいお子さんのいる家族連れの参加が多くて嬉しかったです。

Q. 難しかったことを教えてください

スタンプラリーのコース決めが1番難しかったです。家族連れで参加して下さった方が多かったのですが、見ていると、ベビーカーを使う方への配慮が足りていなかったなと感じました。改めてコースを散策すると、港ってちょっとした段差や階段が多いんだと気がつきました。来年も参加させていただけるのであれば企画内容だけでなく、例えば、ベビーカーを使う方・車椅子の方のために簡易スロープを用意できないか検討するなど、視野を広げて考えていく必要があるかもしれません。もともとある街並みと、バリアフリー化や多様化などの時代に合わせた対応をする難しさを感じました。

Topic 02 答志島実習で環境問題について考える

「22世紀奈佐の浜プロジェクト」の学生部会の2024年度の合宿が10月12日(土)から1泊2日で行われました。例年、多くの大学から学生たちが集まり、答志島の自然環境や地元の人々との交流を楽しみながら、環境問題について議論をしています。今回は、8大学(三重、岐阜、信州、名城、中京、北里、椋山女学園、四日市)から15名の学生が集まりました。また、これまでに学生部会を率いて来たOBOGも8名参加しました。合宿の幹事は四日市大学環境情報学部OBの平野智也さんです。



初日は答志島の桃取港で釣りを参加者で楽しみ、その後は宿泊所である桃取ふれあいセンターに入り、釣れたカサゴなどの魚に加えて、プロジェクト代表で地元の漁師である小浦様に用意していただいたブリ、タコ、ハモなどを調理して、夕食を準備しました。そして、新鮮で豊かな答志島の海の食材に舌鼓を打ちながら、賑やかに夕食を楽しみました。

2日目の朝食後には奈佐の浜で海岸清掃活動を行い、その後は大人と学生部会に分かれ、学生部会は「いろいろな種類のある漂着ゴミの中で、自分としてはどれに取り組みたいか」「そのゴミ問題を社会に広めるにはどうすれば良いか」というテーマで議論をしました。OBOGも入ったので、社会経験をした先輩の意見も加わり、中身の濃い意見交換になりました。

四日市大学からは、環境情報学部4年の鈴木紅龍さんと山本昴世さん、1年の寺田光さんの3名と、OBである平野智也さん、浅井雄大さん、宝亀稜さんの3名が参加しました。全大学の中で最多の6名の参加で、合宿を盛り上げました。



環境問題について学んできたことを共有し合えば、 新たな視点から課題解決につながると感じた実習でした

環境情報学部4年(環境科学専攻)
愛知県立美和高校出身

鈴木 紅龍さん

私は合宿に初参加で、ほとんどの方が初対面でした。合宿を通して参加者同士の距離が縮まり、他大学の方と研究内容や環境問題について話しました。同系統の学部の方々ですが、研究内容や調査対象としているものは人それぞれ。様々な視点から環境問題について考えるきっかけとなり、知見が深まりました。2日目は、チーム対抗で小学生と協力し、海岸のごみ拾いを行いました。その後、他大学からビジネス系の学部の学生も参加し、エコツーリズム企画「答志島を盛り上げていくにはどうすればいいのかわかぬか」についてグループで話し合いました。ビジネスの視点からと環境の視点から考えることができ、学んできたことを組み合わせることで地域課題に取り組む面白さを実感しました。合宿中、夜に、仲良くなった皆で生物調査や星空を眺めに答志島を散策したことも楽しくて印象に残った出来事の1つです。

今回の実習で学んだことを活かし、これからも環境活動に取り組んで地域に貢献していきたいと思います。



Topic 03 合同ゼミ合宿ジョイントセミナー2024に参加



各地の大学から、地方自治や公共政策について学んでいるゼミが集まって、研究を発表し合い意見交換する合同ゼミ合宿「ジョイントセミナー」。今年度は、11月29日(金)～12月1日(日)の3日間、中央学院大学の館山セミナーハウス(千葉県)を会場にして開催されました。

本学からは小林ゼミの2年生、3年生、吉川ゼミの2年生が参加しました。1日目の「人口減少と地方自治」というテーマのもと行われた共通論題報告では、小林ゼミ3年生チームと吉川ゼミの2年生チームが報告しました。2日目に行われた自由論題報告では、小林ゼミ3年生が2チーム、2年生が1チームの計3チームが報告を行いました。日頃接することのない他大学の学生との意見交換や、他大学の先生方からの鋭いコメントなど、学生たちにとっては、未来につながる良い刺激になったことと思います。



共通論題報告・自由論題報告

《共通論題》

小林ゼミ

「どうすれば過疎地域で地域住民の足を確保することができるのか？」

吉川ゼミ

「学生の団地入居による地域活動支援に関する事例報告」

《自由論題》

「若者の孤独死」

小林ゼミ3年生①

「人口流出と地域のつながり」

小林ゼミ3年生②

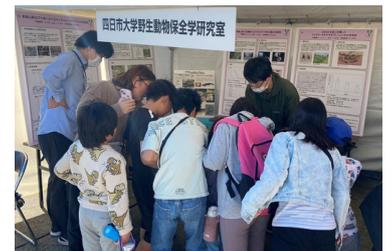
「獣害のない明日を夢見て」

小林ゼミ2年生

Topic 04 第9回なごや生物多様性センターまつりに出展

11月9日(土)に第9回なごや生物多様性センターまつりが名古屋市天白区にあるなごや生物多様性センターで開催されました。なごや生物多様性センターまつりは、生物多様性の保全に取り組む市民団体や教育研究機関等が日頃の活動を紹介するイベントです。

野生動物保全学研究室(野呂研究室)では、所属する3年生と4年生が参加し、日々の研究活動の紹介やモグラ類の標本の展示を行いました。学生の研究活動の紹介では、専門家からのアドバイスも得られ、今後の研究活動の励みになりました。また、モグラ類の標本の展示では、たくさんの子供たちが興味を示し、学生たちも分かりやすく説明していました。



Topic 05 経営学ゼミ・経済学ゼミの学生たちが考えるスイーツ商品開発

12月12日(木)、総合政策学部の二村ゼミと鶴田ゼミの3年生、4年生が考案したスイーツ商品など3つの企画について、柳田苗子(卵卵ふわあ〜む)様、大野真(紀北町役場)様、平賀順子(FM三重紀北町番組ナビゲーター)様に向けた報告会が開催されました。

報告会では、マカロンやドーナツ、じゃばらシロップの利用方法、ターゲットにする年齢層や価格帯、販売促進のための仕掛け、商品化に伴う課題や問題点など学生と紀北町の方々との間で熱心な議論が交わされました。

このプロジェクトは2025年中の商品化と販売を目指して昨年から取り組んでいます。経営学の理論をベースに学生ならではのアイデアを取り入れたスイーツの完成が楽しみです。





クリスマスシーズン恒例となった三岐鉄道北勢線の「サンタ電車」が、12月21日(土)に運行されました。これは、地域の鉄道に愛着を持ってもらい、利用促進につなげていこうという狙いのもと、本学と三岐鉄道などが連携して、2010年から始められたイベントです。クリスマス仕様に飾り付けた電車内でお菓子を配ると、子どもたちに笑顔があふれ、学生たちが扮するサンタクロースも嬉しそうでした。

~ student's Interview ~

vol.1 好きなことが自分にとっての“強み”“自分だけの武器”になるように



勝野 新之助さん

環境情報学部2年(メディア情報専攻) / スペシャリスト育成プログラム
愛知県立美和高校出身

Q 学んでいることに興味をもった時期やきっかけを教えてください

高校入学時、親に買ってもらったパソコンで、動画編集をしてみたことがきっかけです。独学で始めた動画編集でしたが、自分の理想に近い動画が作れた時にやりがいを感じ、編集作業が楽しくなってきました。それから、「好きな動画編集を自分の強みにしたい」と思うようになり、映像制作の勉強に力を注いでいます。趣味である動画編集が、学びとしてステップアップしながら続けられていることが嬉しいです。

Q 四日市大学を選んだ理由を教えてください

四日市大学は、スタジオやカメラなど、映像制作に必要な設備がとにかく充実しています。自分のやりたいこと、勉強したいことが十分に整った環境に魅力を感じました。メディア業界の第一線で活躍している先生方から映像技術の指導を受けることができることも決め手になりました。特に、私は希望者は1年次からサポートが受けられる「スペシャリスト育成プログラム」に参加し、より専門的な知識や技術を学んでいます。実際に機材を扱うことで身につく技術も多いので参加して良かったなと感じています。

Q 映像制作の学びで楽しいことは何ですか

映像制作を本格的に学び始めて、新たに技法を学ぶ度に表現の可能性を改めて感じます。例えば、カメラで被写体を撮る角度にしても、下から撮ると迫力のある力強い絵に、上から撮ると可愛らしくったり、弱々しい絵になったりします。まずは自分が撮りたい映像作品を作れるようになりたいですし、見た人がワクワクしたり、感動したりするような映像を作れる人になりたいです。

Q 将来の目標は何かありますか

バラエティー番組やCMなど映像制作の仕事に就きたいと考えています。「映像の仕事」というとテレビ局のイメージが強いですが、調べてみると様々な選択肢があることを知りました。自分の好きな映像制作、動画編集が仕事としてできたら最高だと思います。そのためにも大学での学びや実習に真剣に取り組み、映像制作、動画編集が、ただ単に「趣味」ではなく「自分の強み」となるように、1つでも多くの技術を身につけたいです。



学生たちの活動や
オープンキャンパスの最新情報は
Instagramをチェック！



 四日市大学



〔発行〕入試広報室
〒512-8512 三重県四日市市市童生町1200

〔受験生サイト〕

<https://www.yokkaichi-u.ac.jp/admission/>